

2019年11月7日
NHK広報局

11月会長定例記者会見

Q. BS4K・BS8K開局から1年を控えて

A. (上田会長) 今月は、教育コンテンツの国際コンクール「日本賞」や、ABU＝アジア太平洋放送連合の年次総会が東京で開催されるなど、放送に関する国際的なイベントが続きます。そのような国際的な場でも4K・8Kは注目を集めています。NHKが放送を開始して来月で1年になります。これまで、紀行や自然、芸術やスポーツ番組など、様々なジャンルを放送してきました。その中で4Kでは「紅白歌合戦」や6月に放送したマチュピチュからの中継、8Kでは、宇宙飛行士が国際宇宙ステーションから撮影した8K映像を編集した「アースウォッチャー」や「ツタンカーメンの秘宝」「2001年宇宙の旅」「ニッポンの夏祭り」「ルーブル美術館 美の殿堂の500年」などが特に好評でした。

今月2日に閉幕したラグビーワールドカップは、4K・8Kならではの臨場感溢れるスポーツ中継を体感していただく絶好の機会として、BS4K、BS8Kでの中継とあわせて、全国各地でパブリックビューイングや受信公開も開催しました。日本代表の活躍もあり、大変な盛り上がりを見せていました。パブリックビューイングや受信公開は、ラグビーワールドカップ以外にも「大相撲」「ルーブル美術館 美の殿堂500年」「花火大会」などでも実施し、4K・8Kを多くの方に体感していただきました。

4K・8Kの普及に関して、A-PAB＝放送サービス高度化推進協会によりますと“新4K8K衛星放送”の受信可能な機器の台数が9月末の累計で200万台に迫るなど、順調に数字を伸ばしています。2020年には東京オリンピック・パラリンピックを控えており、これから本格的な普及が進んでいくと捉えています。

また、NHKは世界で初めて8K放送を開始したことで、放送の新しい価値を皆さまにお届けしてきましたが、世界にも広がりつつあります。BS8Kでは開局1年の特番として、海外でも進む8K制作について取材した「追跡！世界8K最前線」を放送します。番組では、8Kが大きな注目を集めた世界最大のコンテンツ見本市での熱気や、

国をあげて8K制作に取り組む中国の事例などを、8Kの超高精細映像で紹介する予定です。

BS8Kでは、12月は「エンターテインメント番組」を集中的に編成します。昨年の開局とともに、宝塚歌劇団の5組すべての舞台を8Kで放送し、話題を呼んだ「宝塚スペシャルシート」は、今年もすべて新作を放送する予定です。昨年につき、今年の紅白歌合戦も、BS4KとBS8Kでお楽しみいただきます。

今後も、より多くの皆さまにBS4K、BS8Kをお楽しみいただけるように、関係する団体と連携しながら、普及推進の先導的な役割をしっかりと果たしていきます。
(詳細は報道資料参照)

Q. 東京オリンピック聖火リレーの放送等について

A. (会長) 来年3月26日から121日に渡って行われる東京オリンピック聖火リレーに、東京2020大会組織委員会との協力のもと、NHKの撮影チームが毎日同行し、映像を様々な形で発信して、日本の「地域の魅力」を余すところなく伝えます。スタートの日から毎晩、総合テレビで5分のデイリーハイライト番組を放送する予定のほか、走り終えたランナーや応援する人々の声で作るウイークリー番組の新設を検討するとともに、定時の生放送番組でも聖火リレーの様子を紹介します。また映像を地域放送局とライブで共有して、地域に密着した放送展開も進めます。

さらに「東京2020情報サイト」でライブストリーミングを実施し、放送では紹介しきれない人も含めたランナーひとりひとりの映像を配信するほか、「聖火リレートーチ」を展示するイベントも各地で開催します。

聖火リレーは、大会に向けた取り組みの中で、重要な意義を持ちます。第1には日本の全ての地域が直接関わるイベントであることで、地域の魅力を発信するチャンスとして最大限の放送・サービスを展開します。第2は総勢1万人ともいわれる聖火ランナーの存在で、地域に寄せるひとりひとりの熱い思いを伝えていきます。第3は聖火リレーが大会本番に向けた最大のイベントだということです。英BBCのホール会長は、ロンドンオリンピックへの関心を高めるきっかけとなったのは聖火リレーで、一気に国民の機運が高まったと話していて、NHKとしても全国のネットワークを生かして聖火リレーを継続的に取り上げることで、大会本番に向けた機運醸成に取り組んでいきます。そして東京2020に向けたNHKの「4つの約束」

のひとつ、「日本をひとつにつなぎます。日本が世界につながります。」
を、具体化していきます。(詳細は報道資料参照)

Q. NHKキャンペーン《災害列島 生きるスキル》について

A. (会長) 台風19号による豪雨災害に続いて、先月25日の大雨では千葉県と福島県で合わせて13人が亡くなるなど、極めて大きな被害をもたらす災害が相次いでいます。お亡くなりになられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された全ての皆さまにお見舞い申し上げます。

NHKは、公共メディアとして被災した方々に寄り添って、生活や復旧の支援に向け、テレビ、インターネット、ラジオなど、あらゆる伝送路を使って、これからもきめ細かく情報をお伝えしていきます。命と暮らしを守る防災・減災報道の使命を果たすため、地域の住民の方々に災害の危険を「自分ごと」として受け止めて行動に移してもらえるよう、放送での呼びかけ方や情報発信のあり方についても、さらに検討を進めていきます。

防災と減災に関しては、すでにお知らせしている大型キャンペーン「災害列島 生きるスキル」の取り組みとして、12月1日から8日まで“体感 首都直下地震ウイーク”をお送りします。このナビゲーターに井ノ原快彦さんが決定しました。NHKスペシャルのMCとしても出演していただき、番組と多様なサービスを力強く伝えていただきます。

期間中は、「NHKスペシャル」7本を集中的に編成するのをはじめ、ニュース番組や「あさイチ」「ごごナマ」など様々な番組、さらにデジタルサービスやイベントなど多彩に展開します。またNHKオンライン、ツイッター、LINEが連動して、皆さまも一緒に考える防災訓練「#みんなで考える防災」を実施します。

NHKが総力をあげてお送りする“体感 首都直下地震ウイーク”。マグニチュード7.3の大地震に襲われた首都・東京の姿を体感し、それに備えるために「いま、できることがある」というメッセージで、防災・減災の必要性を「自分ごと」として考えてもらう1週間をめざします。(詳細は報道資料参照)

Q. 2019年度「NHK歳末たすけあい・海外たすけあい」について

A. (会長) 今年度の「NHK歳末たすけあい」「NHK海外たすけあい」は、例年通り12月1日から25日にかけて実施します。

「NHK歳末たすけあい」は、共同募金会を通じて、国内の福祉施設や支援を必要とする人たちに使われます。「NHK海外たすけあい」は、日本赤十字社を通じて世界各地の紛争や自然災害、病気に苦しむ人たちのために使われます。関連番組「あなたのやさしさを2019」では、「歳末たすけあい」「海外たすけあい」それぞれの目的や、どのように役立てられているかを、連続テレビ小説「なつぞら」に出演していた女優の福地桃子さんが、国内・海外の事例を取材してご紹介します。また、連続テレビ小説「スカーレット」主演の戸田恵梨香さんや、大河ドラマ「麒麟がくる」主演の長谷川博己さんのほか、各界で活躍する方々が、スポット番組を通じて「たすけあい」への協力を呼びかけます。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

(詳細は報道資料参照)

Q. 2019年度第3期末の営業業績について

A. (会長) 契約総数の増加は23万9千件で、2019年度の年間計画43万件に対して55.6%、衛星契約の増加は33万2千件で、年間計画58万件に対して57.1%の進捗となりました。

第3期の業績は、契約総数、衛星契約ともに、好調だった前年度には及びませんでした。引き続き、年間計画達成に向け全力で取り組んでまいります。

(詳細は報道資料参照)

(以上)